

タブレットやパソコン等で 学びをもっと自由に



一人一人の生徒の主体的な学びに効果的

ICT（情報通信技術）の進展により、インターネットを日常的に利用できることが当たり前となりました。

学校でも ICT 環境を整備し、一人一人の生徒の主体的な学びにつながる教育の充実を図ることが重要であると考えています。

府内の学校では、これまで、電子黒板やコンピュータ教室の整備、インターネットが利用できるよう、校内 LAN を整備してきました。

しかしながら、ICT の分野における技術は驚くほどのスピードで革新を続けています。

京都府教育委員会では、更なる教育の質の改善のために、国の「学校における ICT 環境整備の在り方に関する有識者会議」の最終まとめでも示されている、タブレット端末の導入や普通教室へのプ

ロジェクターの設置、無線 LAN 環境を整備するとともに、これらを活用した学習活動を進める必要があると考えています。

ICT を活用した授業では、教員の説明を一方的に聞くのではなく、生徒同士での話し合いや協働した学習・発表を行う、いわゆるアクティブ・ラーニングの効率的な実施や、インターネットを介して世界各国の生徒と意見交流が可能になるなど、これからの子どもの学びを支えるツールとして非常に有効です。

● 京都府教育委員会では、これからの社会を担う子どもたちに、主体的に考え、他者と協働し、新たな価値の創造や新たな問題を発見・解決していく力をはぐくめるよう、ICT を有効に活用した教育に積極的に取り組んでいきます。

ICTを使えば、例えばこんなことができる

個別のドリル学習

即座に採点されるようなシステムを使うと効率的に学習ができます。

録音・録画と再視聴

英語の発音や詩の朗読などを自分で録音し、それを自分で聞く、振り返り学習が可能になります。

見せる

自分の考えを人に伝える時に、プレゼンの資料などを作成し、示しながら話すような学習を各所で同時に進行できます。

調べる

教育用コンピュータ（タブレット PC）がインターネットにつながれば、すべての学習者が自分に必要な情報を閲覧することが可能になります。

考える

アイデアの書き消し、修正、移動などが簡単にできます。

共有・協働する

お互いのアイデアを自分のものと組み合わせ、編集して活用したり、他者のアイデアに対して質問したりすることがスムーズにできます。

次のページでは、ICT を活用した教育について、現在、府内の学校で行われている様々な取組を紹介するです～



©京都府 まゆまろ 2964009

広がるICT活用

京丹波町立下山小学校「環境学習」

京丹波町では、全ての小中学校で学級の数分のタブレットが整備され、1人1台のタブレットを用いて無線LANによるインターネットを活用した授業が可能となりました。

この日、下山小学校では、タブレットを使い、「地球1個分で暮らすために」という題で環境について考える授業が行われました。

問われた質問に対して、児童は答えや考えをタブレットに書き込み提出。大型モニター画面には全員の意見がリアルタイムで反映され、意見交換や発表を行いました。

全国に先駆け、産官学が協力しICTを活用した環境教育を進めるプラットフォームも立ち上がっている京丹波町。

松本 和久教育長は「遠隔授業など、ICTには可能性がある。今後も積極的に活用したい。」とICT教育に期待しています。



「楽しかった。間違えてもすぐに消せるから、えんぴつよりも使いやすい。」という声も

府立清明高校「タブレット使用率100%」

清明高校はこれまでになかった「昼間二部制・単位制・普通科」という新しいタイプの高等学校です。

全教室に電子黒板機能付プロジェクターを設置するとともに、無線LANアクセスポイントを設置し、校内全域でインターネットが使用できます。また、全校生徒及び全教員が、一人一台のタブレット端末を持ち、授業はもちろん学校生活のすべての場面で活用しています。

ある授業では、教員からの課題配信、生徒からの課題提出をタブレット端末で行う双方向の授業が行われています。また、ある授業ではプロジェクターを活用し、視覚的に説明することで、考えを深める授業が行われています。

生徒へのアンケート結果には、「板書が見やすい」「集中できる」という声もあり、ICT機器を効果的に活用した授業が展開されています。



「苦手だった科目もタブレットや電子黒板を使ったわかりやすい授業でしっかり学んでいます。」という声も



山岡弘高 校長
多様な学習経験を持つ生徒に対して、ICTを活用して学習への主体的な参加を促したいと考えています。



特別支援

「読みたい!」「書きたい!」児童生徒のニーズに応えるタブレット活用事例を公開

京都府総合教育センターでは、府立特別支援学校でのタブレットを活用した実践事例を収集し、データベース化しています。ここでは、タブレットを活用した合理的配慮の提供の例を検索することができます。

電子教科書を読む

- 読みの困難がある児童生徒が使用
- マルチメディアデザイン教科書の内容を音声で聞いて理解する。

使用アプリ・サイト

- ・イーリーダー (有料)
- ・マルチメディアデザイン教科書

ノートをとる

- 書きの困難がある児童生徒が使用
- ワイヤレスキーボードを使用して、ノートをとる

使用アプリ・機器

- ・Pages (標準・有料)
- ・ワイヤレスキーボード

「タブレット端末を活用した教育実践データベース～合理的配慮の提供を目指して～」より一部抜粋
(注)紹介しているアプリ等については、変更されている場合があります。

詳しくは、京都府総合教育センター HPで確認できます。



『教職員の働き方改革』の推進 ～新しい時代の教育に向けたチャレンジ～

■未来の創り手を育てる教育

情報化やグローバル化など急激な社会的変化が進行する中、未来の創り手となる人材を育てるため、次期学習指導要領では、「何を学ぶか」の見直しにとどまらず、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」までを見据え、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの改善が行われています。



■重点モデル地域で先導的な実践研究

●京田辺市

「臨床心理士の配置による学校サポート体制の構築と学校支援の強化プラン」というテーマで、教育委員会に臨床心理士を配置して助言、支援等を行うことによってスクールカウンセラーやま

なび・生活アドバイザーの連携を強化して、各校での役割を一層発揮できるようにしていくための実践研究に取り組んでいます。

●南丹市

「業務改善による実勤務時間の縮減を通じた学校教育充実チーム南丹モデルの構築」というテーマで、教員が担当している業務を改善し、働きやすい職場づくりと学校教育の充実を目指すとして

もに、学校事務の共同実施体制の構築を目指す研究に取り組んでいます。

■家庭・地域との役割分担

こうした中、学校教育が教員の長時間労働に支えられている状況は既に限界に近いところに来ており、教員は自己研鑽の余裕もなく、教職員の働き方改革は喫緊の課題です。

そのため、昨年12月に取りまとめられた中央教育審議会の中間まとめ(注)では、学校・教師が担う業務の明確化・適正化が提言され、学校外の関係機関や地域との連携も含めて、業務の役割分担を提言しています。

昨年8月から10月にかけて、府内6中学校で教職員

の働き方改革トーフ会を開催しました。その際、地域の方から「学校は24時間営業のコンビニではないとの意識を地域も家庭も持つべき」、保護者から「学校・家庭・地域の役割分担が一番大事」といった発言もありました。また、10月には、府内のPTA団体から教職員の働き方改革を応援する旨の緊急アピールをいただいたところです。

(注)新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について(中間まとめ)

■京都市チーム学校推進校

平成28年度に策定した学校の組織力向上プランに基づき、京都府教育委員会では、京都市チーム学校推進校11校を指定しました。

このうち、小学校・高校では、地域との連携・協働体制の構築やチーム学校体制の構築、共同学校事務室の在り方、更なる学校業務の改善などをテーマに研究しています。



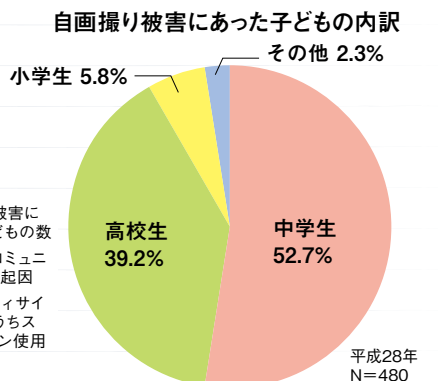
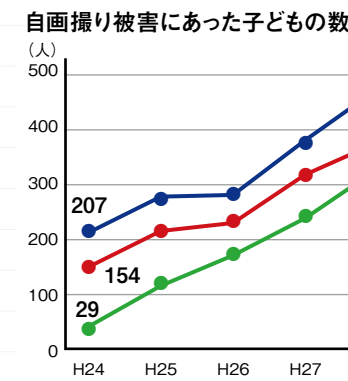
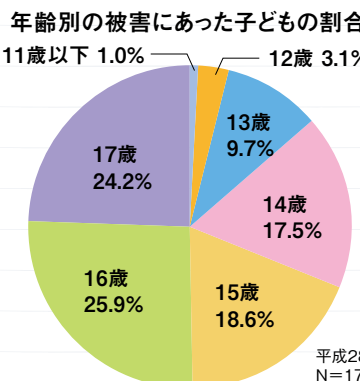
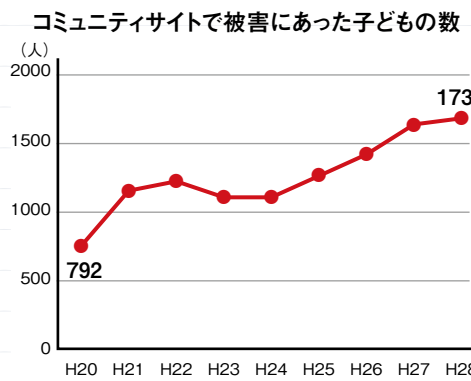
(推進校:小学校5校・高校1校)
・大山崎町立第二大山崎小学校
・八幡市立橋本小学校
・亀岡市立城西小学校
・綾部市立志賀小学校
・与謝野町立加悦小学校
・京都府立城南薗創高校

情報モラル

ご存知ですか?

子どもたちを取り巻くスマホ・ケータイの危険性

※SNSなどネットでの犯罪被害が過去最多!



約2.2倍に増加!

毎年、増加傾向!

子どもにスマホ・ケータイを持たせるなら

- ★利用目的を決めるとともに有害情報などの危険性についてしっかり話し合しましょう。
- ★有害情報にはアクセスできないようフィルタリングサービスを利用しましょう。
- ★家庭で使用するルール(規則やきまり、約束)を決め、マナー(態度や礼儀、周りへの気配り)について話し合しましょう。ルールは決めて終わりではなく、しっかり守られているか、確認しましょう。

高校生サイバー防犯ボランティア

府立京都すばる高校



歩きスマホをしない、悪口やふざけた写真をSNSに載せない、利用時間を決めて使う、困ったら保護者や先生に相談する等、安全な利用方法について楽しく理解を深めました。

- 高校生 「情報の扱い方やスマホの正しい使い方について、少しはわかってもらえたと思う」「小学生との会話の中で、私たち高校生もたくさん学ばせてもらえてよかった。」
- 小学生 「面白く、わかりやすく、スマホの恐ろしさや、使い方を教えてもらった!」

シリーズ人権 自分自身で「フィルタリング」できていますか?

みなさんは何か分からないことがある時、どのようにして調べていますか。インターネットの普及に伴って、辞書や書籍の代わりにインターネットの検索サイトで調べる人が多くなっています。またSNSでは、公的機関や一般市民が発信するリアルタイムの情報を瞬時に知ることができ、災害発生時だけでなく、電車の遅延など、日常生活の中でも有効な情報源となっています。

しかしながら、インターネット上では誰もが情報を発信できるため、中にはデマや無責任な噂、誤報が含まれることもあります。また誰が書き込みをしたか分からない匿名性を悪用して、他人への中傷や個人情報の無断掲載が行われたり、特定の民族や国籍の人々を排斥する

差別的言動(いわゆるヘイトスピーチ)や、同和問題等に関して差別を助長するような内容の書き込みがなされるなど、様々な人権問題が起きています。

インターネットは私たちの生活を便利で快適なものにしてくれますが、間違った使い方をすると一転して大きなトラブルや人権侵害につながる可能性があります。そうしたことを防ぐために、情報を発信・受け取る際には、私たち自身が情報の「フィルタリング」を行い、正しく情報を扱うことが必要です。

インターネットの向こう側には同じ人間がいます。顔が見えないからこそ相手の人権を尊重することを常に忘れずに、配慮を持ってインターネットを利用しましょう。

■部活動指導員をモデル配置

府教育委員会では、従来から運動部活動の技術指導に中心をおいた外部指導者の派遣を実施してきました。

これに加えて、今年度は、昨年4月に制度化された顧問がいなくても単独で技術指導や引率ができる部活動指導員を京都市チーム学校推進校(中学校・高校)にモデル配置しています。



与謝野町立加悦中学校 野球部



舞鶴市立青葉中学校 剣道部

部活動指導員が多忙な教員の代わりに部活動指導に当たることによって教員の負担が軽減され、様々な校務分掌業務の円滑な処理につながっています。

(推進校:中学校5校・高校1校)
・向日市立西ノ岡中学校
・京田辺市立大住中学校
・京丹波町立蒲生中学校
・舞鶴市立青葉中学校
・与謝野町立加悦中学校
・京都府立城南薗創高校

■適切な休養日の設定

昨年4月公表の文部科学省「教員勤務実態調査」で、中学校教諭の土日勤務が部活動時間の増加により10年間で倍増した結果が示されたことも踏まえ、生徒のバランスのとれた生活や成長に配慮する観点から、昨年9月に部活動における休養日の設定に関する通知を府立学校に発出しました。

内容は、府立学校において、高校は週1日以上、中学校は土日を含む週2日以上の休養日を設定するもので、今年1月から本格実施しています。市町(組合)教育委員会にも、部活動における適切な休養日の設定を依頼しています。保護者や府民の皆様のご御理解・ご協力をお願いします。



■部活動指針の策定に向け7

京都府教育委員会では、年度内に府としての部活動指針を策定することとし、国のガイドラインの検討状況も踏まえ、検討を進めています。



お茶の京都



「郷土資料館ってどんなところ?」



海の京都

木津川の流れを一望できるふるさとミュージアム山城（府立山城郷土資料館）は、南山城地域の特色ある歴史と文化に関する考古・歴史・民俗の各資料の調査研究・保存・展示を行っています。

展示以外にも、「こども体験教室」や、タイムリーな話題に対応した「文化財連続講座」などを開催しています。

また、出前教室や団体見学も随時受け付けています。出前教室では、歴史学習、勾玉づくり、火起こし体験、暮らしにまつわる昔の道具に触れる体験教室などを開催していますので、是非気軽にご連絡ください。



山城郷土資料館
HP リンク

ふるさとミュージアム丹後

日本三景・特別名勝の天橋立を一望できる好立地に位置するふるさとミュージアム丹後（府立丹後郷土資料館）は、府北部の考古・歴史・民俗資料や美術工芸品の調査研究・保存・展示を行っています。

展示以外にも、親子でもの作りをする「こども体験教室」、通年シリーズ開催の「古文書講習会」、学芸員と一緒に歴史探検をする「ぶらり丹後」などを開催しています。

また、府指定文化財旧永島家住宅のかまどや囲炉裏を使い、「昔のくらしとかまど体験」なども実施しています。皆様のご来館をお待ちしています。



丹後郷土資料館
HP リンク

乙訓教育局

～地域総がかりの子育てを推進～

乙訓教育局では、乙訓地域 20 の企業・団体等の協力により「親育ネットおとくに」協議会を組織し、地域総がかりで子どもをはぐくむ環境づくりを進めています。

昨年 11 月には、「子どもは地域のたからもの～親も子も共に学び合い、共に育つ地域づくりを～」のテーマのもと「乙訓親まなびフォーラム」を開催し、500 名近くの方に参加をいただきました。講演では、キッズキッチン協会会長の坂本廣子様から「生きる力を食で育てる」と題し、料理を通して子どもの自尊心や自己肯定感を高める取組についてお話いただきました。



講演の後には、「親まなび講座」として、「非行防止と充実した学校生活を送るために」や「親子プログラミング体験オリジナルゲームを作ろう」など、10 の講座に分かれて、参加者の学びを深めることができました。

南丹教育局

南丹美術工芸パートナーズスクール事業 ～校種間連携で“つながる学び”～

南丹教育局では、児童の美術工芸への興味関心を高め、技能の向上や文化の継承・発展を図ることを目的に、高校生から指導を受けて美術工芸作品を制作する南丹美術工芸パートナーズスクール事業を実施しています。

今年度は、亀岡市立千代川小学校5年生が府立亀岡高校普通科美術・工芸専攻 1 年生の生徒の指導を受けて、風景画の制作に取り組みました。指導を受けた児童からは「色をぬる時に雲の描き方を丁寧に教えてもらって楽しかったです。」といった声が寄せられました。



また、小学校の時に指導を受けた高校 2 年生の生徒は、「当時、高校生が下描きを描かずに絵の具であたりをとって制作している姿がとてもカッコよく見え、自分の描いた絵を褒めてもらって嬉しかった。私が今、美術・工芸専攻で勉強しているのは小学校での経験がきっかけです。」と話し、この事業は小学生、高校生双方の「つながる学び」となっています。

京都府教育委員の活動

府立北桑田高校で古典の授業「香りで学ぶ古典文学」

畑教育委員 松栄堂代表取締役社長



a. 授業をする畑教育委員
b. 授業のほかに、北桑田高校森林リサーチ科の生徒が美山小学校 4 年生に教える木工教室を見学

北桑田高校で、昨年 11 月、畑教育委員による古典の特別授業がありました。

古典を選択している生徒 18 名が、「香り」を切り口にした古典文学について、その時代に生きている人たちの心情や文化に触れながら学びました。

生徒からは「古典は割と敬遠されがちな科目だが、千年以上も前の人々が実は自分たちと同じようなものを見て、同じようなことを考えていたんだと知るだけで、古文の見方が変わるし親近感がわいて、とても面白かった。」などの感想が出ていました。



与謝野町宮津市中学校組合立橋立中学校 生徒と意見交換



c. 生徒たちと一緒に給食を試食
d. 生徒会役員と意見交換をする教育委員

与謝野町宮津市中学校組合立橋立中学校を教育委員が訪れ、授業や合唱の取組を見学しました。また、生徒会役員の生徒と意見交換をし、生徒会独自の取組等について様々な話を聞くことができました。

委員からは「特色ある学校づくりとして取り組まれている合唱が素晴らしかった。」「今後も家庭や地域の方々の御理解と御協力を得ながら、生徒の学習環境を整えていってほしい。」との感想や意見がありました。



ひとりで 悩まないで!

電話教育相談
(24時間受付)

ふれあい・
すこやかテレフォン
075-612-3268
または 3301
0773-43-0390

メール教育相談

◆「メール教育相談 京都」で検索してください。
◆携帯電話からも相談できます。



来所教育相談

京都府総合教育センター（伏見区）及び北部研修所（綾部市）で、臨床心理士、精神科医等が直接会ってお話をうかがいます。

巡回教育相談

乙訓(向日市)・山城(京田辺市)・南丹(南丹市)・丹後(宮津市)の各教育局、アグリセンター大宮(京丹後市)で、臨床心理士等が直接会ってお話をうかがいます。

来所・巡回教育相談のお申込みは、「ふれあい・すこやかテレフォン」にお電話ください。

ネット
いじめ
通報サイト

ネット上で
いじめを発見
したら通報して
ください。



体罰
専用電話

075-612-5013
(毎週水曜日 11:30～18:30)

京都府高校生等 修学支援事業のお知らせ

勉学意欲がありながら経済的理由により
修学が困難な高校生等に対する修学資金の貸付をしています。

事業内容については、各高等学校等を通じてご案内します。

お問い合わせ先

京都府教育庁高校教育課
修学支援担当

電話: 075-574-7518

住所: 京都市伏見区桃山毛利長門西町
(京都府総合教育センター内)